

2021年3月9日 15:00~

## 春日井市立南城中学校 現職教育(いのちの授業) 議事録

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野綾巳

### 【目次】

1. 道徳とは
2. 「いのちの授業」が出来るまで
3. 「いのちの授業」

### 1. 道徳とは

#### ●文部科学省の目指す道徳

「文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「**考え議論する道徳**」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の取組を全力で支援します。」の文言が提示されている。

(引用：文部科学省・道徳教育アーカイブの設置について <https://doutoku.mext.go.jp/>)

道徳 = 「**考え議論する道徳**」



いのちの授業 ≠ 「**考え議論する道徳**」

いのちの授業 = 「**子ども一人ひとりの想いが積もってじんわり心と心が繋がる授業**」

#### ●道徳と国語の違い

国語は、文脈に沿って話を進める



道徳は、文脈から離れて良い

道徳は、題材から離れて、子どもの思うままに想像させる

**コツ** 題材(教科書)をしまって気持ちを問いかける→自分の想像で話す

### 2. 「いのちの授業」が出来るまで

#### ●文部科学省の癌教育の推進を受けて

「がん教育を実施する際の参考資料となるよう、文部科学省において作成した「がん教育の推進のための教材」に対応したスライド資料を作成しました。」等沢山の資料が公開されている。

(引用：文部科学省・がん教育推進のための教材 指導参考書資料  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1385781.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm))

文部科学省は、沢山の資料を提示するが、「知識注入」型ではないか？  
 玉置先生「いのちの授業」を作って欲しいと鈴木中人さんから依頼

● 「いのちの授業」をつくるにあたり

小児癌にかかっていた子が学級にいないか確認を取るといった配慮をする

(保護者の反応の例)

- ・是非扱って欲しい
- ・我が子が卒業するまでは、扱わないで欲しい

3. 「いのちの授業」

授業展開	授業のコツ	いのちの授業でのコツ
<p><b>【ケイコちゃんのお話】</b>                      (教師)                      「ケイコちゃんは、なんの病気だと思いますか？」                      (予想される答え)                      ・放射線治療で髪の毛が抜けてしまっているから、がんだ。</p> <p>(教師)                      「この後ケイコちゃんはどうなったと思いますか？」                      (予想される答え)                      ・亡くなった(多数)                      ・元気になった</p>	<p>・授業の初めは簡単な質問                      →難しい質問はやる気が削がれてしまう</p> <p>・発言をリターンさせていく                      当てるだけで終わらない                      →学級づくりにも繋がる</p> <p><b>意図的指名</b></p> <p>・授業は、<b>布石の連続</b></p> <p>・話し合いは、「なぜ○○ですか？と言ってごらん？」と問いかけをすると促される</p>	<p>・「みんな優しいよ。お勉強～」の箇所を心を込めて範読し、布石を打つ。</p> <p>・道徳は、子どもに読ませない                      →子どもには想像に徹させる</p>

<p>(教師) 「小児がんを知っていますか？」 →手が挙がらない 「ガンを知っていますか？」 →多く手が挙がる</p> <p>(教師) 「日本では何人に一人ががんになるでしょうか？」 「毎年、小児がんになる子どもは何人いるでしょうか？」</p> <p>(教師) 心のタイム 「ケイコちゃんに感じたことを書いてみましょう」</p> <p>【マイさんのお話】 (子どもの疑問) ・バセドウ病って何？</p> <p>(教師) 心のタイム 「マイさんに感じたことを書いてみましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字や○×等の簡単な意思表示は、ノートの隅に書かせる →<b>全員参加の授業テクニック</b></li> <li>・書き始めが思い浮かばない子の為に、全文を読まずに机間指導にてキーワードのみ拾う →<b>オープンカンニング丸付け法</b></li> <li>・子どもの<b>コソコソ疑問</b>で、どうしたらいいか分からないときは、子どもに振ってみる 先生が全てを説明するのではなく、子どもに任せてみる</li> <li>・<b>板書は、使わないものは書かない。板書よりも子どもを見る。</b> →板書している間、授業のリズムが取れない。「頭の上がる回数=考えていない/理解していない」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭のことを話す意見は取り上げない</li> <li>・p.5は「知識注入」として読んで展開する</li> <li>・p.6-7はなりきって範読する</li> <li>・子どもに目を閉ざさせて、内省させる</li> <li>・バセドウ病について補足説明が出来るようにしておく</li> </ul>
---	--	--

<p>(教師) 「ケイコちゃんとマイさんに共通していることを教えてください」(時間制限3分)</p> <p>(予想される子どもの答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに生きている</li> <li>・当たり前を当たり前だと思わない</li> <li>・感謝を忘れない</li> </ul> <p>(教師) 「いのちのメッセージ」(ケイコちゃんのお父さん)を範読 これからの私を記入させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書は、「ノートに再現しろ」/「息継ぎ(頭を上げて板書を確認する回数)2回」 →負荷をかけて、家で勉強しない子どもには、授業力で勝負する</li> <li>・意見を聞かせたい時の締めは、全員起立させる。同じ意見だった座り、少しでも違えば立ったまま。安易に座って入れば、「同じだったのか、もう一回教えて!」と聞いて、次回から意見をきちんと聞かせる環境を作っておく</li> <li>・子どもに出力させるため、30秒ずつのエレベータートークを展開する。資料を見ずに、自分の頭の中を言葉にして再現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書に子どもの残すキーワードを書く</li> <li>・キーワードを基に更に周りとの情報交流させる</li> </ul>
---	---	--